

都立高校における大学との連携・接続とその効果

1 都立高校における高大連携・接続の現状

- 都内に大学が多数立地するため連携の機会は多い。普通科進学校から普通科中堅校、進学者の多い専門高校にも拡大。
 - 大学教員による高校での学校紹介・出前授業等の実施 123校 (H16)
 - 大学の科目等履修生、聴講生又は公開講座などの制度活用 59校 (H16)
 - 大学、高等専門学校又は専修学校等における学修の単位認定 27校 (H16)
- 平成22年度頃までにかけ都立高校改革推進計画に基づく新しいタイプの高校が多数開校されるが、その殆どは上記のような高大連携・接続の計画を持つ。
- 都立高校全体として高大連携・接続の教育効果を評価したことはない。

2 都内の大学からみた高大連携・接続の現状

- 都教委主催による進学問題検討委員会の設置 (都教委、大学 (国公立・私立大学別代表)、高校 (タイプ別代表))
- 都教委が行った大学へのアンケートによると、大学側と高校側の意識の差、増加する依頼への対応困難、高校側からの参加者数の伸び悩み、施設設備不足などが指摘されている。

3 都立戸山高校における高大接続・連携の現状

- (1) 平成16年度からのスーパーサイエンスハイスクール指定に伴って実質的に始まる。

① SSH運営指導委員会 (年3回実施)

早稲田大学理工学部教授・教育学部教授、東京農工大学工学部教授、INハイスクール主催者
(2名が学校運営連絡協議会協議委員も兼任)

② SSH事業

- 大学等における実験実習
筑波大学公開講座における観察実習 (菅平高原実験センター、下田臨海実験センター)、早稲田大学 (教育学部地球科学研究科岩石プレパラート製作、理工学部電子顕微鏡操作実習)、東京農工大学工学部 (2日間の有機化学実験実習)、東京薬科大学 (バイオ実習)
- 大学研究室訪問
東京大学総合大学院生命科学研究科、早稲田大学教育学部地球科学研究室
- 大学院生による地学巡検補助 (1年SSH長瀬巡検、1年全員参加城ヶ島巡検)
- 大学教授による講演 (一般生徒、保護者にも公開)
- ポストドクター、大学教授等による課題研究、科学論文作成、プレゼンの指導
AsMEW(早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構)との連携 (平成18年度より予定)
- 海外サイエンスセミナー (スタンフォード大、ハワイ大学など研究所・研究室訪問予定)

参考 群馬県立高崎高校 (H14SSH指定、H17SSH継続指定) の報告書より